

# ドンバスの人間は役立たず、ぜつめつさせなければならない！

ウクライナの極右民族主義者の恐ろしい思想

14頁

## 「ある種の人々は絶滅されなければならない」

ボグダン・ブトケビッチ  
(2015年)

「ドンバスの人間は役立たず。我々ウクライナ人の資源を無駄に消費する。少なくとも150万人は無駄。残酷だが、彼らを絶滅させなければならない」



Bogdan Boutkevitch (ナチ・ジャーナリスト)

こうして、ウクライナは、単に NATO への加盟を促されただけでなく、「ウクライナ語を話すウクライナ人」が「ロシア語を話すウクライナ人」を敵視し、ロシア語話者がネオナチを含むウクライナ国軍による「民族浄化」さながらの軍事弾圧の対象にされるという恐ろしい状況に陥りました。

ウクライナ軍は、世界で初めて、ナチズムの母斑を負った集団が国家の正規軍に組み込まれた国になりました。アゾフ部隊は、ユーロ・マイダン・クーデターの過程で親ロシア派に対抗するために発足した義勇兵部隊でしたが、大富豪イーホル・コロモイスキーからの資金提供を受け、ドンバス内戦で親口派や分離・独立派との勇猛果敢な戦闘で有名になり、やがて「国家警備隊」として位置づけられるようになりました。2014年11月11日のウクライナ内務大臣アルセン・アバコフの署名によって、アゾフ大隊は正式にウクライナ国家警備隊に編入されアゾフ連隊となりましたが、ウクライナ国家警備隊での正式な所属・名称は「東部作戦地域司令部第 12 特務旅団所属アゾフ特殊作戦分遣隊」とされています。

※注:日本の法務省の外局である「公安調査庁」も、「国際テロリズム要覧」のネット版記事に、ウクライナで「ネオナチ組織がアゾフ大隊を結成した」と書いていたのですが、後に削除しました。削除前の見解だと、ウクライナ軍の精鋭部隊をネオナチと認めていることになり、ロシアが特殊軍事作戦を始める理由として掲げた「ウクライナの非ナチ化」という目的に正当性を与えることになりかねません。アメリカの傘下にある西側諸国がウクライナを支援している以上、ロシアの軍事作戦に通底するような表現はマズいと考え、事が大きくなる前に記事を削除したということなのでしょう。安倍政権以来強くなった「忖度の国」が採りそうな方法ではあります。

こうして「ドンバス内戦」が始まり、同じウクライナ人でありながら「ロシア語を話す」という理由で軍事弾圧を受けるといふ、反人権的な状況が深刻化していきました。

フランスのアンヌ・ロール・ボネル監督の2016年ドキュメンタリー映画『ドンバス』は、ポロシェンコ政権下で起きたドンバス内戦の実態をよく描いています。(インターネットでは「ドンバス 2016」で検索できます。<https://www.youtube.com/watch?v=ln8goeR5Rs4>)